



台湾研修で英語力などアップ

地理

他の国際科学オリンピック

では、選手は日本語に翻訳された問題に解答するが、国際地理オリンピックでは、出題・解答も含め全ての活動が英語で行われるため、選手には英語での読解力とコミュニケーション力が求められる。記述式試験(WRT)とマルチメディア試験(MMQ)では日本の地理の授業で扱うことの少ない自然地理的な設問が多く見られる。そのため、選手は地学の分野も含めた自然地理的な知識の習得が必須である。フィールドワーク試験(FWE)では、試験の対象地域の観察や調査と地図や図表の読解を通じて地域の課題を明らかにし、課題解決策を

含めた地域づくり案を提案する力が試される。

代表決定から本大会出場までの研修会は6回行われる。

日本代表選手は今までFWEの得点か他の国・地域と比較して低い傾向がある。それは、

中・高の授業の中で、フィールドワークを経験しないで代表になった選手が多いからだと考える。そのため、研修会ではFWE対策に多くの時間を費やし、その能力の向上を図っている。第1回から第4回は

研修がオンラインで行われ、WRTやMMQの対策、大会開催地の現地事情を学ぶ。

第5回は選手の居住地周辺で、地元大学の地理学の先生とフィールド

ドワーク研修を行う。この研修では大学の地理学の先生から直接指導を受けることができ、選手にとって貴重な機会となっている。

第6回は台湾研修である。

代表選手は国内研修で得た地理力が、どれだけ世界で通用するのかを認識するために、

本大会前に台湾チームと合同で研修会を行う。令和元年の

研修会では日本選手と台湾選手がペアとなり、台北市の中心部と郊外でフィールドワークを行った。夜は互いのポスターを発表し合うことを通じて交流を深め、英語でのコミュニケーション能力を高めた。今年は4年ぶりに台湾研修を行うことができる。代表

選手たちには自身の地理力を台湾研修でさらに高め、本大会でその力をいかに発揮することを切に願う。

(大谷誠一・国際地理オリンピック日本委員会実行委員会研修担当委員長)

2019年の台湾研修。ポスタープレゼンテーション

交流の後、両チーム選手で記念撮影を行った



2019年の台湾研修。ポスタープレゼンテーション

交流の後、両チーム選手で記念撮影を行った